

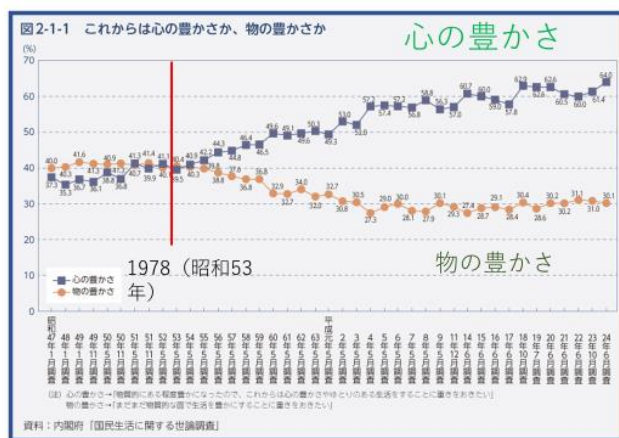
明けましておめでとうございます

日本各地で園芸福祉活動を展開して活躍している皆様、お元気でしょうか？

社会の潮流はサステナブル（持続可能＝SDGs）を合言葉に、脱炭素社会の実現、多様な価値観の共有、社会的格差の是正など、すべての人々のしあわせを目指した共創社会（Society5.0）に向かっています。狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会を経て第四次産業革命がもたらすこの社会は、デジタル革新と多様な人々の創造（想像）力が共創することで社会課題を解決する“価値創造”社会です。情報のデジタル化はますますパーソナル化が進展し、バーチャルとリアル（フィジカル）の融合、デジタルとアナログの調和が求められる社会です。この社会は 2030～2040 年には現実のものとなります。現在のコミュニケーションの質の変化（気候変動、災害、COVID-19、国際関係などの社会的課題によるパラダイム変換）によって、コミュニケーションは形式知（数字や図で表せることのできる知識）と暗黙知（経験や感性といった概念や経験価値）のバランスが大事になってきました。

内閣府の調査によると約 60%以上の国民が心の豊かさを重視し、物の豊かさが大事だと思う人は約 30%程度になっています。

1978年（昭和53年）から物より心の豊かさを重視する人が増えた。
平成24年で約60%（内閣府平成24年6月）



日本園芸福祉普及協会は、“植物と一緒にみんなであらわさになろう”という理念であり実践活動として、20 年余りの歳月が流れました。こんな時代だからこそ初心に帰って、農耕・園芸の経験価値を皆さんと分かち合いながら、進化するデジタル社会が求める心の安寧を共感する役目を果たしたいと思います。

今年から、デジタルツールを活用して日本各地の園芸福祉活動のネットワークの絆をさらに充実させていきたいと思っています。引き続きよろしくお願いいたします。

理事長 吉長 成恭（よしなが はるゆき）

事務局からの連絡

新型コロナウイルスに振り回された年が明け、今年はワクチン効果などにより人々の活動や交流が再開される年になることを願っています。しかし、現実として、首都圏では「緊急事態宣言」が発出されるなど、先が読めない年の始めです。今後、資格認定試験や総会、シンポジウム、養成講座などの実施やスケジュールなど、変更を余儀なくされることもあるかと思ひます。関係される方への連絡や、ホームページへの掲載など、事務局として努力してまいります。事務局も時短やテレワーク対応を行っておりますので、ご連絡など極力メールにてお願いいたします。 E-mail: kyoukai@engeifukusi.com 協会事務局長 粕谷芳則

地域協力団体の紹介

「園芸福祉ふくおかネット」活動紹介

園芸福祉ふくおかネット 副代表・事務局長 黒瀬 恵子

園芸福祉ふくおかネットは、平成16年、初級園芸福祉士の知識や技術の向上、社会の福祉に寄与することを目的に設立。現在の主な活動は、園芸福祉の庭や福岡市役所花壇の管理、特別支援学校の職業技能指導者派遣と園芸福祉体験事業などです。



特別支援学校で園芸福祉 FA 体験



特別支援学校で園芸福祉 HB 体験

コロナの影響で福岡市都市緑化推進事業「一人一花サミット」はオンラインに変更、国営海の中道海浜公園での春と秋の苔玉体験教室や毎月の定例会も安全を最優先に中止です。そんなコロナ禍でも三密を避けながら実施している園芸福祉体験事業は、園芸福祉士としての知識や技術、経験等を生かし活躍できる場として、谷口代表が推進している事業です。これは今年で6年目、高齢者施設での実績が高く評価され、事業の名称が「福祉園芸体験」から「園芸福祉体験」と変更になりました。昨年より対象施設は特別支援学校となり、ハンギングバスケットづくりに加え、卒業記念制作として「のうけんフォーム」を使ったフラワーアレンジメントも行っています。昨年度はコロナのため開催直前で2校中止。今年度は感染防止策の徹底を図り実施しています。この事業で大切にしていることは、分かりやすい言葉でゆっくりと話す、丁寧に説明する、理解してもらってから先に進める、勝手に手や口を出さないなど、体験する生徒の意思を尊重し、体験を楽しみ、達成感を味わってもらえるように配慮していることです。生徒の「楽しかった」「またしたい」の声で園芸福祉を実感し、私たち指導者の喜びになっています。



「ふくいの園芸福祉研究会」活動紹介

ふくいの園芸福祉研究会 代表 浦野 美由紀



当会は、介護関係に関わっている人や園芸関連のプロたちが立ち上げた研究会ですが、私のような園芸好きな主婦も加わるようになり、15年が過ぎて40名弱の会員が活動しています。最初はみんなで園芸福祉のテキストを勉強したり、プラン計画を添削指導してもらったり、楽しく勉強しました。ちょうど資格を取った頃、県の花壇アドバイザーに登録し、いろんな企画に参加するという縁に恵まれ、活動の幅がずいぶん広がったように記憶しています。全国植樹祭や国体等の園芸部門で活動の幅を広げてきました。最近は活動が少々マンネリ化し、また高齢化を感じたこともあり、今年は会の魅力紹介と新規会員の増やす活動に取り組みました。年10回程度実施してきた例会のうち、3回を新聞掲載して一般参加型とし、講座の冒頭に本部からいただいたチラシとふくいの案内チラシ（入会申込書付き）で魅力を紹介した結果、10名を超える会員が増えました。喜びと同時に来年の活動は気を引き締めて企画なくては！と感じています。入会してよかった！楽しい！と感じてもらえるように…

今年の具体的な活動はコロナの影響で少なかったのですが、春には大人の遠足！森の中でジップラインやバーベキューを楽しみ、親睦を深めました。また、一番最近では12月に一般向けに「迎春」の寄せ植え講座をちょっとすてきなプランターで実施。会員向けにも同じテーマでハンギング（リング）を。コロナの緊張感を持ちながらも、楽しく一年を終えることができました。さあ、来年はどんな楽しい年になるのかなあ〜ワクワク！

初級園芸福祉士の自己紹介

＼本年度は、新たに約 160 名の方々が登録されました。その中から一部をご紹介します。／

花やハーブが大好きで、自宅の庭や、休耕畑に沢山育てています。ケアマネジャーとして高齢者、障害者の方々の支援をさせていただいていますが、経験を活かしながら、年齢、障害等の隔たりなく、誰でも気軽に参加でき皆と植物を育てることで仲間になり、参加することで、幸せな気持ちになれるような、園芸福祉活動をして行きたいと思っています。地域で参加できる活動を教えていただけるとありがたいと思います。

(新潟県／50代)

私は、新潟農業・バイオ専門学校園芸デザイン科フラワーデザインコースで園芸やOA技術、販売サービスを中心に学んでいます。中でも、実際に生花を扱う授業では、現場で働くための実践的な技術を得ることができました。また、授業外では、オープンキャンパスのスタッフや地域行事に参加することで、コミュニケーション能力を養ったり、授業だけでは得ることのできないより実践的な技術を得られました。これらの学校で学んだこと技術を含め、園芸福祉士として努力していきたいです。(長野県／学生)

世田谷区若林にある“みのりの庭”というデイサービスに看護師として勤務しております。“みのりの庭”は園芸の出来るデイであり、野菜やお花を高齢者と共に育て、パワーを頂いております。色々な方と出会い、刺激を受け、彩りの良いこれからの人生を送りたいと考えております。

(東京都／50代)

私は初級園芸福祉士として幅広い年代の方が交流を深め、笑顔になれるような活動を行っていききたいと思います。植物は人の心を豊かにすることができるので、その植物の力を活用し、参加して頂いた方々の生活が少しでも心豊かなものになるよう、がんばりたいです。(愛知県／学生)

私は高校でラベンダーやアロマオイルを使用したインテリア雑貨を制作し、リースを作るイベントを企画・運営をしていました。現在は、岐阜県立国際園芸アカデミーで花と緑についてより深く学んでいます。この経験から、私は若い人も園芸に興味を持てるようなプログラムを作りたいと思いました。また、家に持ち帰った後も花と緑を楽しめる様な活動がしたいと考えています。(岐阜県／学生)

高齢者施設で働きながらボランティアで花壇の世話を仲間と行っています。お花を見て「きれいだね」と喜んで下さる皆さんの笑顔を励みにこれからもエールを送り続けたいです。勢い先行タイプ人間であとから考え不足を反省する日々です。

(静岡県／60代)

子供の頃から家には、花や植木に囲まれていました。今は亡き母が花を育てるのが大好きだったので、今回、姉と一緒に参加させて頂きました。将来は、実家で、姉と共に高齢者向けのサロンを開きたいと思っています。実家は高齢者が多く、引き込みりの方を一人でもなくしたい。花を嫌いな人はいない。花を触って元気になってもらいたいと思います。(岡山県／40代)

私は相可高校の生産経済科に入学してから、作物や草花等を育てること、土、自然に触れることの楽しさを知りました。そこで、私は、自分自身が体験した感覚をもっと他の人にも知ってほしいと思うようになりました。これからは、自身で学んだことを活かして、地域などの周りの人達に植物を育てることの楽しさを知ってもらえるような活動をしていきたいと思います。(三重県／学生)

認定校の紹介

三重県立相可高等学校

三重県立相可高校生産経済科では園芸福祉活動に取り組み、平成18年に高校生によるNPO法人植える美 in gを設立し、今年で15年目を迎え、高齢者施設や保育園など地域づくりを目標に活動しています。会員の多くが相可高校生と卒業生で構成され、地元農産物を使った商品開発やバイオマスを活用した環境保全活動にも取り組んでいます。そして、そこから得た収益で園芸福祉活動に必要な資材などを購入しています。

令和2年度はコロナの影響で活動も自粛し、園芸福祉のテーマである「みんなで楽しく」を実践できない年となりました。そのような中ですが新しい取り組みとして「Lonely・Ghost・Busters」を考えました。これは寂しさというゴーストを園芸福祉で退治しようという活動です。具体的には地域に住む1人暮らしの高齢者宅へ訪問し、園芸作業を行うことによって寂しさをなくす活動を展開します。きっかけは普段訪問している高齢者施設の職員の方の「最近、一人暮らしのお年寄りが増え、さらに庭が荒れているんです」という言葉でした。多気町役場や社会福祉協議会から紹介を受け樹木や雑草の管理、バラの手入れなど高齢者の方とコミュニケーションを図りながら楽しんでいます。

地域とのつながりを大切に、私たちの成長の場として園芸福祉は最高です。異なる世代で一緒に楽しみえ笑顔がたくさん生まれる多気町、三重県、日本になってほしいです。



樹木の剪定



バラの管理

新しい園芸福祉士の仲間たち

昨秋、園芸福祉士に認定された方々をご紹介します。
今後のますますのご活躍を期待しています。

東京都

石黒 眞史様
小野 久美様
松岡 静子様

愛知県

吉田 めぐみ様
原 菜月様
山田 紀子様

広島県

浦崎 喜代子様
西本 智子様
浜野 正美様

神奈川県

伴 和之様
柳下 かつ子様

福岡県

大田 香代子様
野々下 和広様

福島県

齋藤 利男様

静岡県

吉村 親様

岐阜県

西田 さゆり様

鳥取県

遠藤 ゆかり様

三重県

楠見 千昭様

岡山県

松本 牧人様

新潟県

佐藤 健太郎様

おすすめの本

ケーキの切れない非行少年たち



宮口幸治著

新潮新書 720 円+税

児童精神科医である筆者は、多くの非行少年たちと出会う中で、「反省以前の子ども」が沢山いるという事実気づく。少年院には、認知力が弱く、「ケーキを等分に切る」ことすら出来ない非行少年が大勢いたが、問題の根深さは普通の学校でも同じなのだ。人口の十数%いるとされる「境界知能」の人々に焦点を当て、困っている彼らを学校・社会生活で困らないように導く超実践的なメソッドを公開する。

あらうのはたけ



村中李衣著

偕成社 1,400 円+税

著者は、ノートルダム清心女子大学教授と児童文学作家の二つの顔を持ち、読み聞かせ活動も行っている。物語は、横浜に住む小学校4年のえりが、山口の田舎に引っ越し、じいちゃんから小さな畑をもらって野菜作りに挑戦するところから始まる。かわいいイチゴを食べる夢を描くが、雑草やナメクジ・毛虫などの害虫、葉野菜を食べるヒヨ鳥やミズを求めて活動するモグラなど様々な難敵と対峙しながら色々なことに気付き感じていく。その様子を手紙にして親友エミに送る。また、収穫したジャガイモを送ったことから引きこもりだった幼馴染のケンちゃんが動き出すなど、二人の少女の手紙での交流を通して、自然の不思議さと子どもたちの心の動きがリアルに描かれている。収穫物は、虫・鳥・動物達、次の作付けに繋がる苗や種、そして人間が、それぞれ3分の1ずつ分けたいだくという考え方が園芸を楽しむ基本的な取り組み方ではないかと思う。この本を通して「人間は、いのちをいっぱいいただきながら生かされている。」ことを改めて実感した。この本は、岡山県岡山市在住の園芸福祉士さんよりご紹介いただきました。

おすすめの一冊

会報で紹介させていただくおすすめの本を募集しています。みなさんのおすすめの一冊をぜひお知らせください。ただし、園芸福祉に関連する、あるいは関連すると思われる本に限らせていただきます。お待ちしております！！

正会員を募集しています

日本園芸福祉普及協会は、NPO法人です。NPO法人は、正会員で成り立つ組織です。協会の正会員の内70%以上の方は、初級園芸福祉士の資格を取られた後に正会員になられた方達です。多くの方に正会員になっていただき、協会運営にお力添えをお願いいたします。

メールマガジン配信中！

全国各地の活動情報、イベント、講習会など園芸福祉に関する情報を配信しています。登録は無料！

登録方法は、件名に「登録希望」、本文に氏名と認定登録番号を明記の上、下記までご送信ください。

送信いただいたメールアドレスを登録させていただきます。

登録完了後、「ご登録完了メール」をお送りいたしますので、「@engeifukusi.com」からのメールが受信できるよう設定をお願いいたします。

送信先 kyoukai@engeifukusi.com

NPO法人日本園芸福祉普及協会

〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町 58

TEL:03-3266-0666 FAX:03-3266-0667

E-mail: kyoukai@engeifukusi.com

URL: <http://www.engeifukusi.com/>